

『池の水なぜぬくの？』

安斉 俊 / 著・絵 勝呂尚之 / 監修 くもん出版

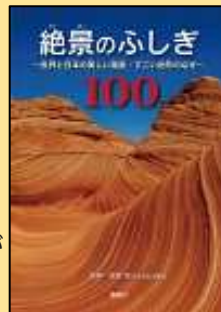
池の水は、仕切り板をはずして抜くことができます。枯れ葉や生きものの死骸、人間が捨てたゴミなどが混じった泥を取り除き、池の水の環境を整えるために行います。池の中には外来種や天然記念物があり、駆除や保護をする必要があります。外来種は水族館の魚のエサや、田んぼの肥料などになります。池の中の世界について知ることができる1冊です。



『絶景のふしぎ100』

佐野 充 / 監修 偕成社

そびえたつ山脈はどうやってできたのか？世界最大の砂漠はどうやってできたのか？山や大地、岩や岩山、海や湖の絶景がどのようにしてできたのか、日本や世界の美しい風景の写真とともに紹介しています。わたしたちが住む地球のふしぎがたくさん載せられています。



『きれいでふしぎな粘菌』

新井文彦 / 著 川上新一 / 監修 文一総合出版

粘菌は、きのこなどの菌類の仲間ではなく、アメーバの仲間です。目には見えないほど小さく生まれ、結合して大きくなり、最後には胞子を作るために、きのこやたらこのような形になります。形も色もどんどん変形します。この本では、色あざやかで面白い形の粘菌がたくさん紹介されています。また、生態の秘密についても知ることができます。



『ニッポン第1号ものがたり』

楠木誠一郎 / 著 講談社

日本ではじめてかき氷を食べたひとはだれ？ファミリーレストラン第1号は？海水浴場の第1号は？日本ではじめて〇〇をしたのはあのひとだった。などなど、それぞれの第1号やその周辺のマメ知識が書かれています。読み進んでいくうちに、いろいろなマメ知識を得ることができますよ。



下京
図書館だより
2021 なつ

5年生
6年生



『日本庭園を楽しむ絵本』

大野八生 / 作 あすなる書房

日本の庭でよく聞く「枯山水」は、石や砂を使って造られ、枯山水以外にもいろんな庭の形があります。この本では、庭園の種類や歴史など、庭に関することを絵本にして、わかりやすく説明しています。庭を通して、日本の文化にふれてみてください。



『聞かせて、おじいちゃん』

横田 明子 / 著 山田 朗 / 監修 国土社

広島に住む友紀子さんは、自由研究で原爆について調べるため、原爆体験者のおじいちゃんに話を聞こうとしました。今までおじいちゃんは、恐ろしくつらい体験をだれにも話しませんでした。けれど、孫のために戦争のむごさ、原爆の悲惨さを語ってくれました。戦争は人を不幸にするだけ。これからの世界は、こんな事が決してあってはならないと教えてくれています。



『ほんとうにあったミステリースポット！もう1つの首塚・呪われた家』

福井 蓮 / 著 汐文社

ミステリースポットといわれる場所で起きる怪奇現象には様々なものがあります。この本では昔からの言い伝えや慣わしを、8つの物語にして紹介しています。物語の後には、伝説や由来などの説明があります。「呪いの家」では、引越越しをして来た家で、子どもが、白いおばあさん「バツバ」と話をする。誰もいないはずの奥の部屋から乱暴な物音が聞こえる…と物語が始まります。



『ありがとう』

谷川 俊太郎 / 詩 えがしらみちこ / 絵 講談社

私のまわりにあるすべてのものにありがとう。そして、私をうんでくれたお母さんにありがとう。そして私にありがとう。ながい道のりを生きていくとき、感謝の気持ちをもつことの大切さを教えてくれています。えがしらみちこの絵が、谷川俊太郎の有名な詩を、さらにひきたてています。



『猫町ふしぎ事件簿 猫神さまはお怒りです』

ひろしまれい 廣嶋玲子／作 森野きこり／絵 童心社
ある日遠矢は、まりえのたのみを断れずにオンボロ屋敷にあるねこじゃらしをとった。その夜、神猫おざなりさまと無数の猫が集う場所に連れて行かれた。贈り物のねこじゃらしを奪った遠矢がかわりに猫神に3つの贈り物を探してくることに。と、同時に遠矢は、魔法をかけられ、夜の間は猫の姿に変えられてしまった。遠矢は贈り物を用意し、無事に人間の姿に戻れるのでしょうか。



『女の子だから、男の子だからをなくす本』

ユン・ウンジュ／文 イ・ヘジョン／絵 ソ・ハンソル／監修 すんみ／訳 エトセトラブックス
女の子は、顔が小さくて、手足が長い子だけが「かわいい」わけじゃない。自分の体をありのまま好きになろう。男の子だって、大声で泣いても、どうと負けてもいい。周りの人が決めつけたイメージに自分を近づける必要はありません。この本には、自分を好きになるヒントがたくさん書かれています。



『夢をかなえる未来ノート』 本田有明／著

PHP研究所
福任陽翔（5年）の夢はプロ野球選手。ピッチャーで、チームの中心選手！ではない…。担任の先生から、夢への実現計画をたてるように言われたけど、どうしたらいいのかわからない。しっかり者の双子の兄大翔の夢は発明家。大翔は、本を読むだけでなく日記もつけている。俺にだって何かできる！自分だけの未来ノートを作っていくことで、自分の弱点や課題がわかってきた！始める勇氣、続ける根氣、やり抜く本氣、夢をかなえる一歩を踏み出そう。



『こども手に職図鑑 AIに取って代わられない仕事100』

子供の科学／編 手に職図鑑編集委員会／編 成文堂新光社
むかしあった仕事は、時代が進むにつれてなくなっていますね。たとえば、電話交換手やタイピスト、駅できっぷを切る人などなど。そして、この先も人間がしていた仕事をAIが取って代わるようになると、なくなってしまう仕事もあるでしょうね。でも、AIが活躍しても残る仕事もあります。物を作る仕事や介護など、人間でなければできないたくさんの仕事が紹介されています。けっきょくAIは人間の指示まちでうごき、感情や意思がないからです。AIとうまくつきあいながら、自分にあった仕事をみつけるヒントがこの本にあります。ぜひ読んでみてください。



かがやく太陽、つめたいアイス、
いよいよ楽しい夏休み！

いつもよりも長い休みだからこそ
読んでみよう！とチャレンジできる本
や、おもしろい本を紹介しているよ！



『ふつうに生きるって何？』 井手英策／著 毎日新聞出版

係決めの日、愉太郎（5年）は一番人気の遊び係に立候補した。候補者が多かったので、ジャンケンで決めることになった。運任せのジャンケンで決めるのって公平なことかな。投票がいいのでは？友達の特太に言うのと、また違う意見がでた。投票は、友達の多い子や人気のある子が勝つから、不公平だと。それなら候補者で話し合うのがいいかな。それだとずいぶん時間がかかってしまう。皆が納得いく選び方って何だろう。日常のなかの当たり前やふつうのことに愉太郎は疑問を持ちます。愉太郎と一緒に、ふつうのできごとに意味を見つけていこう。



『パラリンピックは世界をかえる ルートヴィヒ・グットマンの物語』

ローリー・アレクサンダー／作 アラン・ドラモンド／絵 千葉茂樹／訳 福音館書店

事故で脊髄をけがすると、その多くの患者はそのあとまもなく死んでしまい、ながいあいだ治療の方法がないといわれていました。この本はパラリンピックを生んだ人として知られる、神経外科医ルートヴィヒ・グットマンの生涯をえがいた物語です。下半身まひの治療に取りくみ生存率をあげ、治療にスポーツを取り入れ、今のパラリンピックのもとを築きました。患者への大きな愛情とパラリンピックに注いだ情熱が伝わるおはなしです。



下京図書館

〈場所〉

下京区の新町通と松原通が交わる
ところを南に少し行ってね。
修徳公園の北側にあります！

〈開館時間〉

月・水～金曜日

午前9時半～午後7時（しばらくの間）

土・日曜日・祝日

午前9時半～午後5時
（火曜日はおやすみ！）

